南阿蘇村役場 次世代定住課
移住定住促進プロジェクト

プロジェクト概要

南阿蘇村が抱える過疎化、少子高齢化による人口減少にという村の課題において南阿蘇村では、平成29年10月に「みなみあそ村移住定住支援センター」を開設し、現在は『南GO !! Station 』として移住定住促進に取り組んでおります。

移住定住を更に加速化させるため
- 南阿蘇村への移住定住に関する相談業務
- 空き家・空き地の調査または利活用の提案
- 南阿蘇村ならではの暮らし方の提案
- 移住定住促進に資する企画・調整・実施
- 移住定住等に関するHP及びSNS等の更新など

みなみあそ村移住定住支援センターから
南GO !! Station（なんごーすてーしょん）へ

2016年　熊本地震前の2月に「空き家バンク」がスタート
2017年　「みなみあそ村移住定住支援センター」として、南阿蘇村での移住定住促進プロジェクトが本格的に始動。
南阿蘇村地域おこし協力隊の 第１期生の条川が着任
2018年　第２期生の土屋が着任、「空き地バンク」がスタート
2019年　第２期生の中西が着任
2020年　**『南GO !! Station』スタート**
9月末に１期生の条川が卒業

役場敷地内西側に移築された木造のプレハブが**南GO !! Station**です。色々なものが自分たちの手造りです。

私たち2人は それぞれ「空き家バンク」を通じて 築70年前後の古民家を改修して住んでいます

いやぁ、南阿蘇村に来るまでは芝居に命かけてたんですけどね、今は息子がご飯をいっぱい食べて笑って、ちゃんと寝てくれることが一番の幸せです！「世界で南阿蘇村が一番！」という妹夫婦に引き寄せられて来ちゃいました。ご近所さんもみなさん良い人ばかりで、感謝しかありません。
これからは「あなたがいるから南阿蘇村を選んだよ」って言われるような存在になっていきたいですね。あ、あとはお芝居できます(笑)

つちや　けんじ
土屋 研二
Tsuchiya Kenji

年齢：1才の子どもがいる48才
出身：東南アジアに間違われる名古屋生まれ
隊員歴：3年目

なかにし　みゆき
中西 美由紀
Miyuki Nakanishi

出身：長州藩
隊員歴：2年目

カエルが好き。辛いものが好き。美味しいものを食べるのが好き。ストーブの火が着く時の匂いが好き。生け花、野の花を生けるのがカッコよくて好き。土に触れることが好き。カエルが好き。海が見える街から山の見える村へ。南阿蘇の景色を眺めながら、農業をしたかったから移住しました。農業と空き家再生に携わりながら拠点を創ることを目指しています❣
あと、カエルが好きです。

活動進捗・実績

第１回 『移住定住交流会の開催』

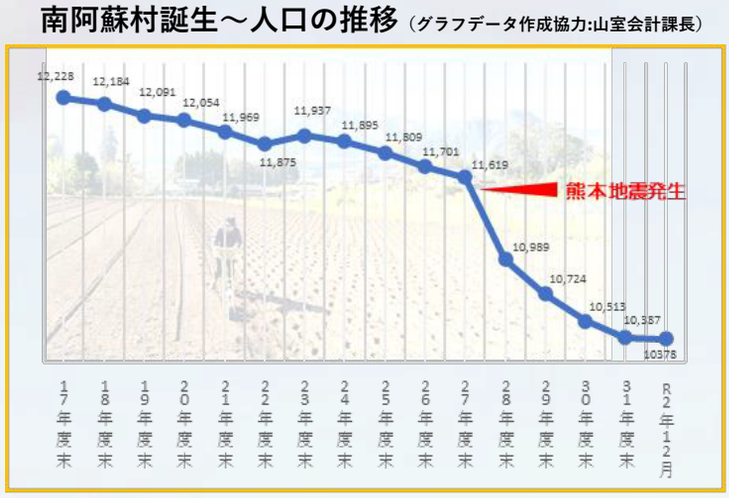
2019年11月29日、みなみあそ村空き家空き地バンクができて“初めての協力隊主催の交流会”を企画、開催いたしました。移住された方と村内の方40名が集まり、会場設営や駐車場の警備、当日の手作り料理まで、協力隊で準備をし、**まうごつ盛り上がったけんねぇ♪**
今後も、環境が整えば地域ごとの少人数での交流会の開催ができればと準備をしているところです。

オンラインによる移住相談会

南阿蘇村への移住は、コロナ禍で関西・関東からの希望者も増えてきております。気になる物件があった時、また移住に関して村での生活への不安をオンラインで結び、定住支援員の方にもご協力いただいて、相談会の開催をしました。

南GO!!Stationへの移住相談内容の中でも、特に**農業**に関する質問を多くいただいています。本格的に就農される方、農作物の販路を広げようと計画されている方、自給自足の生活をされたい方などなど…。
実際にオンラインマッチングで物件の売買が決まったご夫婦がいらっしゃいます！

南阿蘇村誕生～人口の推移（グラフデータ作成協力:山室会計課長）



南阿蘇村が誕生した平成17年(2005年) **12,228名**だった人口も熊本地震で急激に減少し、**令和２年(2020年)12月1日現在は 10,378名**となり、**15年で約2,000名**少なくなっています。
しかしお陰様で、南阿蘇村に移住をご希望されていらっしゃる方は、増加傾向にあります。
先ずは人口を元に戻し、村が活性化していく為にも、空き家の活用は必須となっています。そして若い世帯、子どもたちが住みよい環境を整えていく事を望んでいます。

空き家再生活用の先進事例 in 鹿児島研修

空き家物件を家主様からお借りして、
そこに住みたい方の要望に応えながらのリノベーション。

再生して活用する ＝ 空き家に明かりを灯す

そんなプロジェクトは、全国に広がっています。南阿蘇村でも、空き家再生活用物件を創りたく研修会を企画し、２日間の学びある研修となりました。